

令和7年度 第2回 築上町総合教育会議 会議録

1 日 時 令和8年3月25日（水） 午後3時47分開会

2 場 所 築上町役場 議会委員会室

3 出席者

（構成員）	築上町長	古市 照雄
	教育委員会	
	委 員	小林 正尚
	委 員	折本 美佐子
	委 員	正野 法子
	委 員	行實 鉄平
	教育長	久保 ひろみ

（構成員以外の出席者）

則松学校教育課長、種子生涯学習課長、樽本教育施設整備室長、鍛冶総務課長、
濱田学校教育課参事、脇山生涯学習課参事、中原学校教育課課長補佐、
奥村生涯学習課課長補佐、馬場生涯学習課課長補佐、
藤江教育施設整備室課長補佐、宮内指導主事、寺門指導主事、上原指導主事

（傍聴者） 1 名

※読みやすくするため、発言の趣旨を損なわない範囲で、重複表現、言い
回しなどを整理しています。

午後3時47分開会

○学校教育課長（則松 裕司君） それでは、皆さん、こんにちは。定刻より10分ほど遅くなりましたが、令和7年度第2回築上町総合教育会議を開会いたします。

進行を務めます学校教育課長の則松でございます。よろしくお願いいたします。

それでは、お手元に配付をしました次第に沿って進行させていただきます。

それでは、古市町長、挨拶をお願いいたします。

○町長（古市 照雄君） 改めまして、築上町長の古市です。よろしくお願いします。私も、実は、皆さんも御承知かと思いますが、昨年の3月31日まで役場の職員で、その前は生涯学習課長でこの総合教育会議も参加をして、生涯学習課の事業を説明してきました。本日は町長という立場で参加をさしてもらいまして、今日も教育長の辞令を交付して、あと教育委員さん2人も改めて辞令を交付しました。今回、令和7年第2回目ということで、教育行政については皆さん日頃からやられていると思いますけども、交流の場、いろんなことを話ができる場ということで開催をさしてもらっています。例年であれば1回、2回程度開催ということを知っていますが、私自身もやっぱりこの先学校もいろいろ新しくいろんな社会情勢も変わってきて、生涯学習の分野であつたりいろんな分野がありますので、そちらも一緒に共有できればと思いますので、状況に応じて1回、2回、複数回となるかも分かりませんが、今後開催をしていきたいなと思っています。

この目的として、やはり教育、共有ができればなと思っていますので、そういった思いも込めて、今後また臨機応変に会議を開催させていただく可能性もあるということで、私の挨拶とします。

また、今日は1日、短い時間になろうかと思いますが、いろんな共有ができればと思っていますので、そこで共有認識して、一緒の方向向いて前に進んで教育行政も含めて進めていければと思いますので、よろしくお願いします。

以上です。

○学校教育課長（則松 裕司君） ありがとうございます。

それでは、築上町総合教育会議設置要綱第4条第1項の規定により、議長については町長が行うと定められておりますので、これからの進行を古市町長、お願いいたします。

○町長（古市 照雄君） それでは、お手元の次第に沿いまして、3の報告事項のほうに移りたいと思います。

まず、1項目の教育職員に関する業務量管理等について説明をお願いします。

○学校教育課長（則松 裕司君） それでは、学校教育課、則松でございます。委員の皆様、資料については、タブレットの中の総合教育会議、令和7年度の第2回、3月25日開催フォルダの中に、築上町業務量管理・健康確保措置実施計画というPDFがございます。こちら、行實委員さん以外の委員さんについては3月6日に御説明している内容のものでございます。

それでは、この資料をお開きください。町長と総務課長については、お手元に配付しておりますのでそちらを御覧ください。よろしいでしょうか。

それでは、御説明いたします。

給特法の改正に伴い、教育職員の長時間労働の是正と健康維持を目的に、国の指針に基づいて業務量管理・健康確保措置実施計画の策定が各教育委員会に義務づけられております。また、計

画策定後は速やかに総合教育会議で報告をする必要がありますので、今回報告するものでございます。本町の計画については、3月6日の教育委員会臨時会で承認されましたので、概要を報告いたします。

それでは、資料をお開きください。

計画の目的については、先ほど述べましたとおり、教員の長時間労働を是正し、働きやすい環境を確保するというところでございます。

計画期間については、令和8年度から11年度までの4年間となっております。

達成する目標については、1ページ目の中ほどに目標というところがあります。その(1)のところでございますが、時間外在校等時間に関する目標ということで、1か月の時間外在校等時間の平均を30時間程度にするということで定めております。

この目標と計画期間については、給特法の附則第3条、それと国の指針に定められているものであるため、本計画についても同じ数値を定めているものでございます。

なお、令和6年度の時間外在校等時間の状況については、その目標の少し上に書いてありまして、小学校については月の平均で34.9時間、中学校については月の平均で39.3時間ということになっております。まだ、目標とする数値を若干ですが上回っているという状況でございます。

また、その下のほうにありますが、身心の健康保持やワーク・ライフ・バランス、働きがい等に関する目標ということで、有給休暇の取得日数や教員のストレス削減について目標に定めております。

計画を達成するための取組については、教育職員の業務を3種類、1つ目は学校以外が担う業務、それから2つ目は教育職員以外が積極的に参画すべき業務、3点目は教師の業務であるが負担軽減を促進すべき業務という3つに分類して、全部で19項目の取組を定めているところでございます。

今後については、町内各学校の教育職員の在校等時間の状況を把握し、毎年度、築上町のホームページで公表するとともに、定例の教育委員会、それからこの総合教育会議において報告したいと考えております。

説明については以上でございます。

○町長（古市 照雄君） ありがとうございます。意見交換等については、質疑等も次の4の意見交換でしたいと思いますので、続いていきたいと思っております。

続きまして、STEAM教育の推進について同じく、学校教育課、お願いします。（発言する者あり）報告の順番はどちらでもいいです。説明しやすいほうでいいです。

○学校教育課参事（濱田 健太郎君） 学校教育課参事の濱田です。すいません、国際交流のほう

から話をさせていただきます。

こちらにつきましては、前回少しお話をさせていただいたんですが、あれから実際訪問したり、事後の報告会もありましたので、それを中心に説明をいたします。

まず、確認で、きっかけは、東京オリンピック2020のことが契機となりまして、昨年度、その選手の出身校のグアムのホゼ・リオス中学校と椎田中学校、築城中学校が姉妹校を締結したことから始まっております。そして、本年度、生徒を連れ添って国際交流事業を開始しております。今回は、椎田中学校、築城中学校の1、2年生から8名を選考して実際に行ってまいりました。

研修の目的としましては、英語力の向上、コミュニケーション能力の向上、そして国際感覚を身につけるというところで、実際に行ったというところを前回説明したかと思います。ちょうど出発の日だったと思うんですが、いろいろあって12時間遅延して到着するということがあったんですが、無事に研修を行ってまいりましたので、説明いたします。

こちらは、向こうでの歓迎のセレモニーのところですよ。グアムのホゼ・リオス校から手厚い歓迎を受けまして、このような形でセレモニーを行っていただきました。子どももだんだん顔の緊張もほぐれてきたんですが、向こうの学校の御厚意で、必ず行った生徒さん1人に対して1人のペアのバディのお子さんをつけていただいて、ずっとそういったお子さんと触れ合う機会があって、英語力の向上であったり、そういった文化の交流とかいうところも身近に行うことができっております。このお子さんたちの顔見ると、すごく充実した活動ができたということがお察しいただけるのではないかなと思います。

こちらでの活動のメインの一つが、オンラインの交流です。現地グアムのホゼ・リオス中学校と築城、椎田中をオンラインでつないで行いました。このような形で画面越しでやってるんですけど、ちょっと実際の様子が動画がありますので御覧ください。

中学1年生のお子さんなんですけれど、このプレゼンも事前研修会をここでかなり回数重ねて学校とかでもプレゼンを作成して行っております。ここちょっと面白いところなんですけれど、雪を見たことがありますかということで、ないと笑ってるんですけど、そういったやり取りもしながら交流しました。この様子もこのような形で椎田中や築城中の生徒さんや小学校のほうのお子さんも実際に見ていました。

こういったことをして、実際に築城中のほうから今質問している場面ですけど、放課後どんなことをしているかということです。日本のほうから質問しています。こちらのほうで回答して。このような形でやり取りをしたというところがあります。

ほかにも、グアム大学のほうに訪問いたしまして、こちらでは教育プログラムを用意していただいて、グアムの文化のことを学んだりしておりました。ここは、ココナッツキャンディーです

か、そういったものを作るような実技的なものもあつたりとかいうことで楽しんでいます。

このような形で4泊5日の研修を終えて、事後報告会も先日行われたところでございます。

最近、研修を終えての作文をレポートを提出してもらったんですけど、その中の1人の子がこういった感想を書いてました。言葉が通じなくても分かる単語で少しでも話してみたり心を開いていくことは大切なんだなと分かりましたというふうに書いてたんですけど。この子、必ずしも積極的にするタイプの子ではないんですけど、やはりこういったことを活動することでこんなことが大事だということで、今後につながるようなことを学んだ子もいました。

今回、代表の子が8名でして、現地の子と交流したりしたんですけど、こういった子が一人でも増えるように、ますます広がるようにということで、今後もこういった活動の交流は続けていきたいというふうに考えております。

国際交流については、以上でございます。

○町長（古市 照雄君） 引き続き、STEAM教育についてお願いします。

○学校教育課参事（濱田 健太郎君） では、STEAM教育についてです。こちらにつきまして前回少し説明がありましたが、少し説明もしながら新しい情報も入れていきたいと思えます。

まず、確認ですが、STEAMというところですが、あちらにありますように科学のサイエンスから始まってマスマティックスまで、幅広く教科等横断的な教育ということでやっておりますが、学校でいえば各教科での学習が実社会での問題発見とか解決につながるそういった学習ということで、今、町内、全町で推進を進めているところでございます。

こういったところが定義的にはなされているんですけど、築上町のSTEAMとしては何を指すかというところで、下段にありますように、知をつなぎ社会を創る子どもというところを目指してます。この知をつなぎというところが、いろいろな教科の学びを生かしていくということになります。そして、社会を創るというところが、実社会とか未来の社会につながるというところで、そういった教育をしていってこういったお子さんを育てようというところで、全町で小中学校ともに行っているところでございます。

そのキーワードとしては、まず子どもがやはりわくわく感を持って学ぶこと、いろんな教科の学びを生かすこと、社会とつながること、そしてクリエイティブ、創造性を持って学習をしていきましょうということでやっております。

そして、この中の活動の一つとして、昨年度から椎田中学校が取り組んでいるのが、僕らの町を残そう！未来の築上町プロジェクトということで、昨年度もこのような形で議会の議場で課長さんたちに提案をさせていただいております。「きずきのぼる」君に代わる「きくいも太郎」というキャラクターを考えて昨年提案したんですけど、今年もこのキャラクターが何回か出てきたんですが。そういった提案を昨年度して、今年度もこれのセカンドシーズンということで、今年

はこの築上町のプロジェクトなのでちくプロというネーミングもつけながらやってるところです。

今回は、最終的に4案出てきたのが、LINEスタンプを作ろうというところであったり、遊具を作ろうと、あとは、スタンプラリーでガチャを作るとか、あとは大学誘致をしようという4案が出てきました。こういったところの案が出てきたんですけど、ちょっとこの中の大学誘致の動画の一部を御覧ください。

こういった形でかなり細かくしてるんですけど、これを見る限りでも、STEAMというのは教科横断というのがキーになりますが、やはりグラフを読み取る数学の要素も必要であります。この説明をするためにやはり国語の要素があったりだとか、やっぱりどこに大学をつくるか、地理的な要素で社会であったりとか、いろんな教科の学びを生かすことができないと、やっぱりこのようなことはできません。

この子たちのすごいところが、実際に大学を誘致してる自治体のほうに自分たちでアポイントを取って、オンラインでやり取りをして、そこを基にしながらブラッシュアップしてこういった案を立てています。あのスライドもこの子たちが作ったものです。

このことについて、課長さんから質問があったのが、築上町につくるとインフラの整備が十分じゃないということが質問があって、この子たちがそこがもっと発展性を期待していますとかいう回答をしてたんですけど、そういったことに対しても回答するような場面も見られました。

こういったところが出てきたのは、背景としては、子どもたちが個別の課題、これ一つ一つが課題の一つ一つなんですけれど、自分が本当にしたいこと、やっていきたいことを考えて、それをこのような形で1人でじっくり学ぶこともあれば、グループで学んだりとか体験的に学んだり、そういったことをやってきた上であの姿があるということは御理解いただければと思っております。

先ほどは中学校の実践でしたが、このような形で小学校におきましても、創造的というところでは3Dプリンタを使ったりとかああいった端末を使ったりとか、この前も御紹介した西角田のほうではイチゴパフェを考えたりとかいうところで、小学校のほうにも多様な展開をしているところがございます。

今後におきましても、わくわく感、教科横断、そして実社会のつながり、創造性ということを大事にしながら、知をつなぎ社会を創る子どもを育成できるようなSTEAM教育を築上町教育委員会としては推進して、学校を支援していきたいというふうに考えております。

以上でございます。

○町長（古市 照雄君） ありがとうございます。引き続き、築上町図書館築きのもりについて、生涯学習課のほうからお願いします。

○生涯学習課長（種子 祐彦君） 築きのもりににつきましては、生涯学習課所管になっております。

詳しい内容につきましては、参事の脇山のほうから御説明させていただきます。

○生涯学習課参事（脇山 千賀子君） 生涯学習課図書館係の脇山でございます。私からは、昨年にオープンしました築上町図書館築きのもりについて御説明いたします。

本日は資料といたしまして、2種類のパンフレット、それと最近できました築上町子ども読書活動推進計画第3次の冊子を配付しております。

現在の図書館は、旧築城支所をリノベーションしまして、出会う・つながる・わくわくする、豊かな心と学びの心を育むくつろぎの図書館を基本理念とし、昨年11月22日にオープンしました。図書館移転に当たっては、令和5年1月に築上町図書館基本構想基本計画の策定、令和6年5月に築上町図書館管理運営方針及び築上町図書館サービス計画を策定しました。

次に、図書館にあります本の冊数について御説明いたします。

現在、1階児童書は約1万5,000冊、雑誌は44種、2階には新聞がございまして、5紙取っております。そして、移転後に新設しました10代向けのヤングアダルトコーナーは約700冊、CD、DVD等は約300点、一般書は約2万3,000冊で、1階と2階の開架の本は約4万冊となっております。3階の開架書架につきましては3万の本を蔵書しております。合計で約7万1,000冊となっております。

利用状況については、オープンから約4か月が経過しました。令和8年3月22日現在で、来館者数7万2,410人となっております。うち18時以降の入館者数は2,700人、オープン後の新規利用者カードの登録者数は1,384人となっております。また、貸出しの人数は延べ8,120人、貸出し冊数は2万9,079冊となっています。

次に、職員体制です。町の職員が4名、会計年度任用職員は12名、合計16人で運営しています。うち司書の資格を持った職員は8人となっております。

また、館内が広がったことから、昨年、運営サポートボランティアと読み聞かせのボランティアを募ったところ、一番若い方で中学生、上は80歳の方まで、幅広い世代の25人の方に手を挙げていただきました。2回の講義、実習後に認定証を交付し、現在は書架整理や利用者の御案内、1階の遊べる本棚の見守り等の活動をしていただいております。

次に、令和7年度の事業及びイベントについてです。

4月には、出前講座で町内の8校の小学校のほうに伺い、図書館の利用の仕方や新図書館のPRを行いました。そして、令和7年7月1日から電子図書館をスタートしました。開館に向けては、8月17日に旧図書館の閉館セレモニーを行いまして、その後閉館し、9月末から引っ越し作業を行い、開館準備をしまして、11月22日に開館記念式典及び絵本作家、宮西達也氏の講演など、オープニングイベントを開催しました。12月には、新図書館に全小学校の児童を招待しまして、図書館の利用の仕方やルールについて説明を行いました。

そして、移転後のサービス拡大についてです。

まず、開館時間ですが、休館日の火曜日を除く平日については10時から夜8時まで、土日祝日は朝10時から夕方6時までとなっております。

そして、全館Wi-Fiの整備、町民によるイベント及び展示企画、毎週末のおはなし会やワークショップなどのイベントの開催、館内でのDVDを見れるブースの設置、インターネットなどによるサイレントルームの座席予約、タブレットの貸出し、インスタグラムのアカウントの開設、カフェの併設などです。

今後も、より魅力的な図書館になるようサービスの充実を図るとともに、SNSなどを通じて情報発信をしていきたいと考えています。

次に、課題と今後の展開についてです。

課題の一つとして、移転に伴い遠くなって行けないなどの意見がありますが、図書館への交通手段については図書館だけの問題ではなく、町全体で考えていくべき課題と考えております。

そして、本日お配りしている子ども読書活動推進計画の第3次は、2次の計画を見直し、令和8年度から5年間の計画となっております。

開館当初から比較しますと来館者数は落ち着きつつありますが、この4か月間図書館内の様子を見まして、1階の遊べる本棚などの子どもの利用、また本などの貸出しはもちろん、2階の学習席の利用、また長時間の滞在やカフェの利用も大変多く、交流の場となっていると感じております。

図書館は誰でも無料で利用できる文化情報発信の施設です。親子で、友人同士で、楽しみながら、遊具で遊びながら本と触れ合える築上町図書館は新しい図書館の在り方であり、様々な可能性を持つ施設と感じています。

また、子育て世代が子どもさんに読み聞かせをしている姿や、子どもさんを通じて親同士がコミュニケーションを取っている姿は、子育ての一助となっていると実感しております。

以上で、築上町図書館築きのもりについての説明を終わります。

○町長（古市 照雄君） ありがとうございます。引き続き、最後になりますけども、椎田地区小中一貫校建設事業について、教育整備室、お願いします。

○教育施設整備室長（樽本 知也君） 教育施設整備室の樽本でございます。お手元に資料を配付しております。教育施設整備室からは、椎田地区の小中一体型校の建設事業のスケジュールと工事概要について簡単に説明させていただきます。

まず、事業工程については、最初のページを御覧ください。

令和5年度から本事業の設計業務を進めてまいりまして、本年度は条件付の一般競争入札による業者選定を経まして、9月末から川口・大同特定建設工事共同企業体による校舎棟の建築工事

が始まっております。建築工事は令和9年3月までを計画しておりまして、令和9年4月の開校を目指しております。

また、開校後の令和9年度から令和11年度にかけましては、校舎周りの外構の2期工事、旧校舎の解体を3期工事、小学校グラウンド工事を第4期工事、中学校グラウンド工事を第5期工事として、児童生徒の安全面を考慮して1期から5期までの各工事の期間は重複しないような計画としております。

なお、現在の正門下の敷地外に約120台ほど駐車可能な駐車場整備を計画しております。外部駐車場につきましては、本年度用地の買収を終えまして、現在は仮設の臨時駐車場また工事ヤードとして利用しておりますが、校舎棟の建築完了後に舗装を含めた駐車場の造成工事を行っていく計画でございます。

なお、建物につきましては、中にも各断面とか入れておりますが、鉄筋コンクリート3階建て、延床面積が1万2,630平米となっております。

また、今回建築する小中地域コミュニティー一体型校につきましては、環境面に配慮してオール電化施設として計画しております。

また、従来の上履きを廃止した一足制に対応した建物としております。

建物の構成といたしましては、1階に小学校の1年生から4年生までの教室と特別支援学級、教職員の部屋や保健室、校長室など管理諸室を配置し、2階に小学校5、6年生と中学校1年生から3年生までの教室、また理科教室等の特別教室を配置しております。また、3階には老朽化した椎田中央公民館の代替の施設として利用可能な多目的ホール、事務室及び会議室を建物の西側に集約して配置しております。

また、学校施設ではありますが、地域の方々にも利用していただけるように計画しておりまして、音楽室、クッキングスタジオ、技術室等の特別教室を東側に配置しております。

また、先ほどちょっとありましたSTEAMラボも3階に計画しております。

また、生徒たちが発表しましたきくいも太郎等のキャラクターのイメージも、今後、中のサインに取り入れてまいりたいと考えております。

簡単ではございますが、以上説明させていただきます。

○町長（古市 照雄君） ありがとうございます。以上で、本日の報告事項の5点については今終了しました。

今から意見交換のほうに移りたいと思いますので、1番から順を追って意見交換のほうを行っていきたいと思います。

まず、1番の教育職員に関する業務量管理等について、何かございましたらお願いします。じゃあ、教育長、お願いします。

○教育長（久保 ひろみ君） 先生方の働き方改革、そしてどうしても学校、私も学校にいましたので、教員という仕事はやればやるほど際限ないというかそういうところではあるんですけど、やっぱり今学校の10校を見てみますと、やっぱり中学校がおおむね遅いところが多い。そして、大規模とは言わないけれども、小規模校はおおむね時間どおりに帰っているというようなところであります。

ですから、今回この実施計画を策定して、先生方一人一人がやっぱり時間に意識しながら仕事をする。もちろん一生懸命頑張っていてほしいんですけども、残っていつまでもするというんではなくて、それぞれの先生方の健康も考えながら、働きやすい環境づくりをしていくということで目標値を設定して、毎回ホームページにも公開していくというところでの実施計画をつくっているところでございます。

特に、今取組として学校でしているのは、電話がかかったときに対応の品質を向上のための録音で、録音を回して、その後先生が出るということで、保護者の方がすぐ何々先生にとって出るのではなくて、そういうものを流したり、それから6時以降には留守番電話の対応とかもしながら、学校でできるだけ先生方が、ここに上げておりますような本来の業務以外のことで時間を使うことのないようにという取組をしております、少しずつこれを町として目標を掲げて改善をしていこうということですので、皆さん方も何かいい案とかあれば出していただければなと思っています。

以上です。

○町長（古市 照雄君） ありがとうございます。ここ、私からでも、すいません、ちょっと1点あって、この説明資料の5番の関連する取組、今後のフォローアップについてというところの築上町のホームページで公表するとともにというところで、ホームページの公表を含めて、教育委員会報告する、総合教育でも今報告していただけてますけど。実際に、報告した後に、関係者の方というか、要は一般住民の方、それを見たときの問合せ等々というのはやっぱりあるものなんですか。今、現実どうなのかなと思ひまして、お願いします。

○学校教育課長（則松 裕司君） 学校教育課、則松でございます。御質問の業務量管理・健康確保措置実施計画については、本委員会報告後に掲載予定でございまして、まだ掲載してない関係上、問合せ等はございません。

その他、働き方改革の指針とかそういったものも掲載はしておりますが、今のところは一般の住民の方からの問合せはないようでございます。

以上でございます。

○町長（古市 照雄君） ありがとうございます。その他よろしいでしょうか。

○委員（行實 鉄平君） じゃあ、一つ、すみません、あえて時間外勤務の月平均の部分で、

30時間目指してということで、小学校が5時間ぐらい、中学校が10時間ぐらいってことだと思います。現状、今平均がっていったところで、オーバーしてるので。これ、業務をちょっと仕分け3つにされて19のっていったとこの部分だと思うんですけども、基本的にはこの1番目のっていうところの分を少し重点的に見ながら、いわゆる学校以外が担うべき業務みたいなとこの分をどう切り離していくのかといったところで。19も結構たくさんあるので、総合的にやっぱり時間、勤務が長くなってるというところの部分かもしれませんけども、この中でみたいないところがもしありましたらちょっと教えてもらえたらなというところだとか。

あと、今度こういったものを調査していきながら、何となくではなく狙いを定めた形で対処していくということになろうかなというふうに思ったりはしますが、そこら辺何か考えてるところがあったら教えてもらえたらと。

○学校教育課長（則松 裕司君） 学校教育課、則松でございます。教育職員の業務の軽減ということで、先ほど教育長も言われた電話の応対、品質向上のため通話内容を録音する機能を今年に入ってから椎田中学校と築城中学校に導入しております。それによって相手の方も電話で話す前に一呼吸置けるというような効果などによって先生の負担も軽減できるのではないかと思います。

それと、この計画自体が、今後これから精査していくものにはなるんですが、今少しずつ力を入れているものとしては、13番に部活動というところがありまして、地域展開の部分でも、すぐにはなかなか先生方の労働時間が減るということにはならないとは思いますが、これも地域の方とも協力しながら労働時間を減らしていければというふうに考えております。

また、校務支援システムなど活用しながら教職員の業務の削減に取り組んでまいりたいというふうに考えております。

以上でございます。

○町長（古市 照雄君） 久保教育長、お願いします。

○教育長（久保 ひろみ君） そして、今、教育委員会として学校教育課だけではなく課を超えてということで、この学校以外が担うべき業務の中の④地域学校共同活動の関係者間の連絡調整等っていうのが上がっていると思うんですけども、地域学校共同活動推進委員の方々がコーディネートしながら、これまで学校の先生方がいろんな地域人材とかを当たっていたところをこの推進の方々が動くように、ここに今活動費といいますか、それを出しまして、この委員の皆さんたちが動くことによって少しでも学校の負担を軽くするということで、学校は全く何もしないというわけではないんですけども、できるだけ地域の方々に活躍をしていただくというところも、ここはもう今力を入れておりまして、学校の清掃活動も含めて、コロナのときからいろんな御支援をもらっておりますので、地域の方が学校の教育活動に参画することによって先生方の負担を軽減するというのは、今、課は越えて取組をしているところでございます。

○町長（古市 照雄君） ありがとうございます。そのほか何かございますでしょうか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○町長（古市 照雄君） それでは、続いて、順番入れ替わりまして説明順にいきたいと思います。
国際交流事業について、何か意見交換等があればお願いします。

○委員（行實 鉄平君） じゃあ、場つなぎで、すいません。素晴らしい取組だなというふうに感銘受けました。その中でも、やっぱり参加者は限られた子どもたちだというふうに思いますが、どんな子が選出されてっていったとこの部分だとか、あと参加するに当たって自己負担というか、何かそういったものもあってっていうところでの参加なのかとか、そういったことをちょっとすみません詳しく知りたいので教えてもらえたらと。

○学校教育課参事（濱田 健太郎君） 学校教育課、濱田です。選考に当たっては、書類選考と面接を行っています。面接は大きく2つあって、1つはやはり簡単な英会話がある程度できないと難しいところもあります。もう一点は、日本語なんですけど、やはり志望動機であったり、将来のことであったりそういったことを言って、意欲の高い子、そういったところを総合的に判断して8名を選考しております。そういったところでございます。

費用に関してなんですが、個人負担は、パスポート費用のみです。その点はやはり他市町と比べてもかなり珍しいところなんですけど、そういったところがやはり自己負担が少額でもかかってくると、そこで応募をためらってくるっていうところもあるかもしれませんが、公平にいろんなお子さんがそういったチャンスがあるっていうところは大きいというところの声も聞いてますので、ぜひそういった応募したいという子が参加できる体制にあったということはよかったんじゃないかなと思っております。

以上でございます。

○委員（行實 鉄平君） ちょっと続けて聞いてもいいですか。

○町長（古市 照雄君） どうぞ、お願いします。

○委員（行實 鉄平君） すいません、引き続きですけども、やっぱり応募の子たちは8名以上いて、そこから選考したって形なんですか。

○学校教育課参事（濱田 健太郎君） 倍率は2倍程度です。本年度は、初めての事業なので、本当にもうチラシ1枚配って、内容は詳しくは書いてはいるんですけど、よく分からないけどそういったところがあるからぜひ応募しようという応募があったんですけど、次回あるとすれば、やはりこのオンライン交流とかも実際子ども見ているので、想像もつきますし、今回のオンラインのことにつまましては小学生も見られるようにしていますので、その子たちが中学校上がって応募の対象になってくるというのもありますので、次回以降は応募が増えるのではないかなというところは予想しているところでございます。

○委員（行實 鉄平君） あと一つだけ、すごい興味あるので、活動参加した子がその後何らかのリーダーシップだとか、行って終わりじゃなくって、楽しかったじゃなくって、その後何らかの活動、来年に向けた、こちらでのメンター的な役割だとか、何かそういったことも考えられたりするんですか、教育プログラム。

○学校教育課参事（濱田 健太郎君） 事後といたしましては、事後報告会を、2月中旬に訪問したんですが、後半に行っております。それが一つありました。

もう一つは、このオンラインの交流というのが年1回というものではなくてやはり継続的にできたらいいと思いますので、その架け橋のような役回りを彼らが果たしてもらえればいいなという期待はしておりますが、そこはまた中学校とも連携しながら進めていきたいと考えております。

○委員（行實 鉄平君） これで終わりっていうんじゃないくって、行った子、どこまで囲えるのか分かんないですけども、そういったその後といったところの部分も活躍してもらえるような何かプログラムだといったというふうに思いまして、すいません、意見さしてもらいました。

以上です。

○町長（古市 照雄君） そのほか、国際交流事業。正野委員、お願いします。

○委員（正野 法子君） 正野です。行ってない子たちにはどんな刺激があったのかとか分かりますか。

○学校教育課参事（濱田 健太郎君） 濱田です。行ってない子の具体的なアンケート等は取っていないんですけど、やはり先ほどオンラインの様子を見ていただきましたように、自分のクラスの隣の子が向こうに行ってるというところで、そういった意欲の向上につながる部分もありましたし、遠くの知らない地域とつながっているというよりは、本当に一緒に勉強している子がそこに行っているというところの親近感っていうかそういったところの部分はあったように聞いております。

また、学校とも、どういった感想があったかとかも聞いてみたいかなと思います。

○委員（正野 法子君） 来年は行きたいなとかそういったアンケートとかも取って、もうちょっと英語が苦手な子とかも積極的にそこに関わっていけるような取組になっていくといいかなと思います。

○町長（古市 照雄君） ありがとうございます。ほか何か。じゃあ、折本委員、お願いします。

○委員（折本 美佐子君） 折本です。その他の部分になるのかなと思いますが、ちょっとつながっている部分があるので、ここで話させていただきます。

古市町長とは初めての総合教育会議なので、町長の意気込みといいますか、思いを聞かせていただいて大変うれしく思いました。どうぞよろしく願いいたします。

今グローバル、国際交流事業についてのところだと思うんですけども、古市町長が6つの目

標を掲げていらっしゃる中で、特色ある地域資源を活用した教育、グローバルな視点を養う教育の導入・検討という項目があると思うんですが、例えば今言っている国際交流事業だったりSTEAM教育、特色ある地域資源とかいうことであればSTEAM教育かなと思うんですけども、その辺の、何か具体的なものがあればお聞かせいただきたいんですが、こういう質問でもいいんでしょうか。いいですか。

○町長（古市 照雄君） いいと思います。その他になるかと思いますが、ちょっと私のほうで、委員から質問があったんですけど、ちょっとお答えさせていただきます。

100%の答えにはなるか分かりませんが、やはりグローバルとか地域の資材、地域資源というのは目標に入れています。教育の分野ではやはり必要だと思いますし、この考え方の元が、私もこのあとの意見交換の中で話そうと思っていたんですけど、やはり今回の国際交流事業の元というのがオリンピック、パラリンピックの取組からスタートして、そのオリパラのレガシー、その前には中国との姉妹校の締結等もありました。

本町においては、中国との姉妹校の締結から始まって国際交流事業、その前は、合併前は、両町でも取組をしていたと思うんですけども、近年で行くと、町内小学校と中国の小学校との姉妹校の締結、そして今に至っては、オリンピック、パラリンピックがレガシーとなってこの事業があっているものと思っております。

私自身が担当としてオリパラの取組、聖火の誘致等もしてきましたので、やはり子どもたちにはいろんな世界を見てもらいたい。オセアニアに限っても、グアムだけではなく、十数個の地域で構成されて、14、5かな……でありますので、いろんなところで、いろんな子どもたちがいて、いろんな学習をしている、教育を受けている。その中で、例えば教科書がある国・地域、教科書もあるかないか、国の考え方、国の財政力も含めてですけど、そういったのも含めていろんなものがあるといったところで、グローバルなということを入れさせてもらっています。

今回が本当に、引き続きグローバルに直結してくると思いますし、いろんな体験をそこで初めて知る。国際交流の事業が成長という目標を掲げていますとおり、やはりグローバルな展開をするということで、こちらの今の事業が本当にマッチしているのかなと思っております。

あと、地域であったり、地域資源というのは、やっぱり人であったりとか物であったりとかというのがありますし、そういったところを教育の分野に生かしていければと考えております。

まずいろんな、今回も含めてですけど、この国際交流を含めて、今後も継続をしていければなと思っていますし、改めて今、折本委員からの話、質問の中では、ちょっとその回答になるかと思っています。

引き続き、私の要望なんですけれども、できるのであれば、今回、先ほど言ったように取組のスタートが、やはりオリパラというところが自分では認識しているところです。

これをレガシーとして捉えて、そして、その中で、何でこの事業が始まったのか、今回はホセ・リオスと姉妹校の締結をしていますので、そのスタートであったり、物語というか、そういったものもありますので、そこも一緒に学習の中に入れてもらえていると思うんですけど、現地に行く、交流する。オセアニアオリンピック委員会とかもありますので、その中でのまた交流も、スケジュール、プログラムの中に入れてもらっても、多分、オリンピック委員会は協力していただけたと思いますので、そういったところの子どもたちの協力、そしてオリンピックスポーツのまだ幅広い展開というのものもあるのかなと思いますので、そちらのほうも検討していただければと思いますのでお願いします。

○学校教育課長（則松 裕司君） 学校教育課の則松です。私も、子どもたちと一緒にグアムに同行しまして、その間、濱田参事と2人でグアムのオリンピック委員会を訪問しております。

この前、訪問されたマイケルさんとお会いしまして、向こうの事務局の方もこの事業にかなり関心を持っておりまして、できればプログラムとしてオーノックの活動とかグアムの文化とか、そういったものを共に学べるようなプログラムも考えている、検討しているということなので、次のときはそういうのも協力したいというような申出も受けております。

なので、次回プログラムを考える際は、そういったところも含めて考えてまいりたいと考えております。

○町長（古市 照雄君） ありがとうございます。可能性が大いにあると思いますので、やはり引き続き、プログラム等々検討いただければと思います。

国際交流事業、ほかに何かございますでしょうか。よろしいでしょうか。

それでは、次のSTEAM教育の推進について、何かございましたらお願いします。

○委員（行實 鉄平君） これもよろしいでしょうか。すごい、これもすばらしい取組だなというふうに思って聞いておりました。

もう少し、教えてもらいたいのが、こういった子どもたちの提案といったものを少なからず実装化していく。ただ言って、考えてもらって終わりじゃなくて、本当に着地させるといったところの部分で、その精査の、もちろん予算がかかったりだとか、突拍子もない、いろんな子どもたちの提案だと思いますので、なかなかそれが実現に至らなかったり、いろいろあると思うんですけども、少なからずやっぱり実践できて、自分たちが考えたものが形になるという体験は、ただ提案させるだけじゃなくてというので必要なんじゃないかなというふうに思うんです。

どれぐらい実装化、着地化させることが、これで、いろんな提案が出てきている中で、今日は4つの中でもちょっと1つという、かいつまんだ形だと思うんですけども、どれぐらい、提案という形になって、それをキャラクターとかという形で実装化できてとかっていうのは、やっぱり絞られる形だと思いますけども、何かそういうのをどういった視点で実装化していくような伴走

をやっているのかということ、実際にどれぐらい実現されているものがあるのかといったところをちょっと教えてもらえたらなと。

○学校教育課参事（濱田 健太郎君） 学校教育課の濱田でございます。実装化というところです。この取組は、昨年度に申し上げましたように2年目となります。昨年、初めて取り組んだんですが、昨年やはりそこ、実装のところからちょっと離れているところもありまして、ただ提案したというところは昨年はありました。

今年度に関しては、やっぱりそこも見越した上で提案をしていますので、これから実装していくというところに関しては、やはり町長部局のほうと、いろんな課と連携しながらということになってくると思います。

ただ、今回見ていただいた形では、例えばLINEスタンプであったりだとか、スタンプラリーのガチャとかも3Dプリンタで実際にものを作成したり、実現に近いものもかなりありますので、そこは町長部局とも連携しながらできたらいいなと思っております。

そして、実際に実現できるというところを重視するために、この活動については役場の様々な課の方々に御協力いただいています。企画を立てる段階から、役場の企画財政のほうからも来ていただいたり、先ほど大学や空き家の話もありましたが、空き家に関してはまちづくり振興課のほうの説明を聞いたりとか、そういったところで各課の方との連携もすごく深くさせていただいていますので、そこを強めながら、さらに来年は実現に近いようなところができたらいいなと思っていますところでは。

○指導主事（宮内 智久君） 子どもたちの提案がまさに、STEAM教育の要素を入れたものであったからこそ、副町長や町長さんが動いてくれている。それが、子どもたちの本当に意欲づけになっているんだなと思っています。

提案が実現する段階になったら、ガチャガチャは、キャラクターを取り入れていきたいなというふうに言っております。

以上です。

○学校教育課長（則松 裕司君） 補足です。先ほどの件ですが、ガチャガチャじゃなくて、スタンプラリーのスタンプについてです。この件については、中学校と協議しながら、少しずつ実現に向けて進めているところです。

○教育施設整備室長（樽本 知也君） つい先日知ったんですけど、キャラクターをちょうど椎田中学校の生徒たちが何種類か考えて提案していただいていた部分がございますので、そこは今、椎田地区の小中一帯型校を建設途中で、6月ぐらいからサイン、各階諸室とか教室のサインのイメージとかをつくっていく段階になっていますので、工程会議も学校長に入っていただきまして、生徒たちが原案を確定させた段階でそれを取り込んで、どこまでこう、全部の教室にとかいう形

になるかどうかは分かりませんが、一部そういった、今いる在学生在が考えたキャラクターとか使える部分は、今、ちょうど建設途中である学校のサイン計画に取り入れていく方向で学校とも調整はしております。

工事の中で、キャラクターについては実装していくことになろうかと思います。

以上です。

○町長（古市 照雄君） ありがとうございます。そのほか。

じゃあまず、今の点でも私から、ちくプロについても、本当に子どもたちの意見を昨年から聞かせてもらっています。このSTEAM教育で提案したものを、できたら素晴らしいでしょうけど、できないこともありうると思っています。実現する、しないという結果もありますが、それまでのプロセス、チャレンジというのが子どもたちにすごく重要になってくると自分では理解しています。

その中で、やはり先ほど説明があった子どもたちが提案するまでにいろんなものを調べて、いろんな人に聞いて、学校誘致の提案については、私たちが行政職員として、こんな視点でとか、やはりこっちに持ってきたかというのも意外とあります。

やっぱり、子どもたちのその考え、素直な考えであったりするために、私たちが考えるよりも違う考え方、別の視点から見るというのもすごく感じ、感想としては持ちました。

あわせて、やはりそれに行き着くまで、今の説明の中で、例えば子どもたちがこのプロセス、プレゼンをするために役場に来て、役場の課と職員に聞いて、その中でいろんな情報を引っ張り出す。これ、こうなんですか、どうなんですか。やはり、目指していく目的は一緒なので、そこで、来年以降もどんどん役場の行政機関を使って、分からない点とかそういったのをリアルに、対面でもいいですし、電話でも、何かしらやっていただければなと思っています。

それに伴う必要な資料とかは、やはり共有しながら出したりとか、それについて、子どもたちが学ぶことも必要ですし、あわせて行政の職員もそこで、やはり子どもたちがまちづくりに真剣になっているんだといったところを、ただ提案ではなく、やはりその、そういう下調べというんですか、そのデータ集めからでも、役場の職員も子どもたちの意欲であったり、その物事の見方という、本当に学べる場所も両方あると思いますので、そういったところも含めてやっていただければなと思っています。

全部が全部実行するというよりも、やはりその中で形になるべきもの、形になるものというのはあってもいいと思っていますし、先ほど樽本課長が言いました、学校の中でも実際、その形としてできてくるというのも、私たちが、子どもたちのデザインが、考え方が、本当にいいなといったところで取組をするっていうのが一つだと思いますので、そのほうも併せてお願いできればと思っています。

これ、私の要望というか……になるのかなと思いますけども、意見と併せて言わせていただきました。

それでは、STEAM教育については、よろしいですか。

それでは続いて、図書館「築きのもり」について、どなたかありましたらお願いします。正野委員、お願いします。

○委員（正野 法子君） 図書館で開かれるおはなし会への参加は非常に少なく、平均3組程度というふうに書かれていると思うんですけど、以前、私も子どもがちっちゃいので参加、何度かさせていただいたんですけど、その中で、英語で本を読んでいただいたりとかもあったんですね。最近では、そういうのもないと思うんですけど、一、二年前ぐらいに行橋のリブリオで英語のおはなし会があったときに参加させていただいたんですけども、そこでは十何名、20名近くの親子の方々が参加されていました。すごく賑わっていたイメージなんです。

おはなし会に参加する、子どもが参加したいって言って参加する場合もあると思うんですけど、どちらかと言えば、親が参加したくて参加するっていうところになると思うんですよね。そうなった場合に、どうしても英語でちょっとう、私はしゃべれないけど、誰かが読み聞かせしてくださるんだったら参加してみたいっていう親御さんはかなりいらっしゃるのかなと思うので、そういうのを取り入れたりする。

あとは、ベビーマッサージとかが非常に人気なのでそういったものとコラボしたりとかする。

または、私、よく築きのもりに子どもと行かせてもらって絵本もたくさん読むんですけども、その絵本の話のストーリーの中で、これをつくってみたい、あれをつくってみたいっていうふうに子どもが言ったりすることもあるんです。なので、読み聞かせが終わってから、じゃあ一緒にみんなでつくってみようとか、ちょっとう、ひとつ、絵本の読み聞かせだけでなく一緒にできるようなものがあると付加価値がついて、親も一緒に参加したりとかが増えるんじゃないかなというふうに思います。

○町長（古市 照雄君） 教育長、お願いします。

○教育長（久保 ひろみ君） ありがとうございます。読み聞かせの参加というところ、数は少ないというところも今あって、正野委員にいろんなアイデアをいただいて、私もそうだなと思うんです。

図書館整備に当たって、私自身、国内もいろんな図書館にも行っていますし、個別に、私的にも行っていますが、昨年、フィンランドのヘルシンキの図書館に行ったときに、やはり同じように子どもたちの図書館、静かに読んでいただけじゃなくて、お母さん、お父さん、いろんな人と一緒にリトミックをしたりとか、いろんなことを、体を動かして、そしてその流れで、ちょっとお休みしようっていうところで本を読み聞かせをしたりとか、いろんな取組があった。

今、うちの図書館は遊べる本棚になっていますので、何かまた、そういう動きを、十分体を動かした後、ちょっとお休みするときに読み聞かせをすとか、それから今言っみたいに、ちょっと言語的な、英語であったり、日本語以外でとか、そういうものもある面白いし、また、方言の、例えば語り部とか、そういうものがあると面白いのかなと思いますので、また親御さんが興味を持つようなものという視点も私はすごく大事なかなと思っていますので、いろいろ今、図書館もすごく工夫してくれています。もう本当に大変だと思うんだけど、いろんなちょこっとイベントをしてくれていますので、少しずつリピーターさんが増えてきているようですので、何かまた、いいアイデアがあったら、皆さん、出していただけたらなと思っています。

○生涯学習課参事（脇山 千賀子君） 今、正野委員がおっしゃっていたのは子ども読書推進計画の中身だと思います。その中身が、移転前のコマーレにいたときのデータになりまして、今、移転後のおはなし会はひだまりの部屋というのが奥にあるんですけども、あそこに入り切れないぐらい、毎回参加はいただいております。

ただ、今のアドバイスをいただいたように、それがまた何かにつながっていくようなおはなし会とか、英語のおはなし会も、前、国際交流員でいたリアンさんに協力を得て、月に一度だったと思うんですが開催していました。また、英語のおはなし会など、親御さんの興味を引けるような努力をして、いろんな方に来ていただけるようにしていきたいと思います。ありがとうございます。

○町長（古市 照雄君） そのほか、築きのもり、何かよろしいでしょうか。小林委員、お願いします。

○委員（小林 正尚君） 築きのもりができて、ちょうど自分のところに孫が3人いて、何か雨の降った日とか、どこか連れていけないなとか思ったときに、ちょうど築きのもりが、あそこなら騒いでもいいなと思って、気軽に連れていくことができる場所が築上町にできたということで大変助かっております。

ついでに本も借りてきて、家で借りてきた本を部屋の本棚に置いているんですけど、汚すんやないとか、ひやひやししながら見ていますけど、先ほど、いろいろ話もあったように、これから発展していくだろうと思いますけどよろしくお願ひしたいと思っています。

うちの娘が、今、仕事で学校に行き出したんですけど、その前は、よくインターネットで、今日はあっちの豊津のほうで何かあるとか、今日は行橋のほうで何かあるとか、いろいろインターネットで探して、そういう催物に行っていましたので、そういう面でも情報がすぐ伝わるようになればいいかなと思います。ありがたい話です。

以上です。

○町長（古川 照雄君） 折本委員、どうぞ。

○委員（折本 美佐子君） 折本です。一つ、年末に28日まで開けてくださったことがとてもよかったと思っています。というのが、うちの息子たちはもう、よそに出ているんですけども、帰省はお盆とかお正月、帰ってくるんですけど、28日だったかな、間に合ったんです。もう夕方しか帰りつかなかったんですけども、時間も遅くまで開けてくれていたので、帰省のとき、4時集合で、現地で、私も行って、車で来させて、そこに1時間以上いて、カフェで、買物したりとかしました。

そうすると、ここには住んでいないけど、自分のふるさとにこんなものができたんだっていうことでとても喜んで、また帰ってくる楽しみができたというふうに言っていました。

やっぱり、開館の日というのも頑張ってください、私は感謝しております。また、今後ともよろしくお願いします。

やっぱり、ふるさとを思う気持ちが強くなればなるほど、築上町のためにもなるんじゃないかなと思いますので、ありがとうございます。

以上です。

○生涯学習課参事（脇山 千賀子君） ありがとうございます。建物は立派なのを建てていただきましたので、今からソフト面というか、サービスの中でどのように利用者を増やしていくかというのが課題というか、私たちがしていく仕事だと思うので、皆さんに誇りに思ってもらえるような図書館づくりを進めていきたいと思います。

○町長（古市 照雄君） ありがとうございます。では、そのほか、よろしいでしょうか。行實委員、お願いします。

○委員（行實 鉄平君） すみません、行實です。人口1万7,000ほどで、今7万人ぐらい来られているっていったところの部分で、恐らくこれ、延べ人数っていうところだと思うんですけども、今後は多分こういった、誰がどのぐらい来ているのか、実利用っていうところの部分で、町民の中の延べ人数じゃなくて、本当に繰り返し来られていますけれども、何%ぐらい来ているのかだとか、世代もそうだと思うんですけども、恐らくもう、考えられていると思うんですけども、データを取りながら、もし、やっぱり足を運ばれてないような方々が恐らくまだ多いんじゃないかなというふうに思います。

そういったところを戦略的に、多くの方に来てもらえるようなといったところの部分は、ちゃんとデータに基づいて、これから戦略を立てて、多くの方に来ていただけるようなといったところの部分はやられているんじゃないかなと思いますので、やっていただけたらいいんじゃないかなというふうに思いました。

あと、私が個人的にちょっと今、関わっている北熊本の南関町といったところの部分も「このみち」という、新しく図書館をリニューアルされているんですけども、そこで雰囲気がい

いなくて思ったのが、朝市みたいな。図書館は図書の施設というのはもちろん当然なんですけども、交流といった機能も持たせるために、何か物産市じゃないですけども、ちょっと空いたスペースで定期的にやられたりとかっていう。

このカフェだとか食だとかというのはやっぱり集まりやすい機能というか、きっかけになりますので、何かそういったものも複合的に、既に考えられているかもしれませんが、やられるといいのかなというふうに思ったりしました。

もし、やられているのがあれば、また教えてもらえたら、ちょっと僕、まだ行っていないのですみません、イメージだけで申し訳ないですが、以上です。

○生涯学習課参事（脇山 千賀子君） ありがとうございます。今、おっしゃっていた物販とか、朝市、マルシェみたいな感じだと思うんですけども、図書館の立地がいいことと、道筋から見える、開けた場所にありますので、図書館の利用が多いのを見て、いろんな方からイベントをしたいというお声はいただいているんですけど、なかなか私のほうがその対応に追いついていないです。

ただ今度、4月26日に男女共同参画ネットの皆さんがイベントを、図書館を盛り上げようということでイベントをしていただけるということなので、それに向けて今、動いているところです。

また今後も、たくさんの方がそういう活用もできるような仕組みづくりをしていけたらなとは思っております。

以上です。

○町長（古市 照雄君） あとはよろしいでしょうか。

最後、私から、今、行實委員とあと脇山参事のほうからもからのお話がありました、図書館の今後、今、利用者はかなり増えてきています。これはもう事実なので、先ほど言った、町の人がどれだけ使っているかといったところも、何かすごく、今後必要なところかなと思っていますし、図書館に行くきっかけとして違うものがあって、図書館に来て本を借りるという、その相乗効果というか、つながりもあるのかなと思います。

先ほど言った、いろんなものがあって、マルシェも一つだと思うんですけど、本当にこれも重要だと思っています。建物があって、その周りの関連する、個々にもありますけども、連携・交流であつたり、基本方針の2の連携・交流というのはまさにそうではないかなと思います。

今後本当に、私たちと一緒に、地域の人と一緒に図書館「築きのもり」を育て上げるといったところの観点からも、行政だけではなく、地域の人たちが主になってできるようなものというのも、新しい今からの行政の考え方でもあるかなと思います。

私も思いますけど、その行政だけ、行政が本当にこう、図書館も運営しながら、マルシェもし

ながら、何をしながら、調整しながらって、やはり、かなり多岐にわたった業務内容にもなってくると思いますし、そこも含めて、今からの取組になると思うんですけど、新しい自助・共助・公助ではないですけど官民連携、何か地元の人、地域の人たちが関わって、そこで自分たちで何かをやっていくといったところも含めてやる。

施設管理も重要だと思います。重要だと思いますけど、そういったところも含めて、いろんな人が関われる、自分たちでやるという、何かそういったのもあってもいいのかなと思いますし、それはまた、今後の検討かなと思います。

多くの人が関われる、多くの人が築きのもりを好きになってくれる、築きのもりファンになってくれる。これが、築上町ファンにつながればいいと思います。

いろんな可能性がまだまだありますし、この築きのもり、生まれたばかりですので、まだまだ成長していくようにできればなと思っております。

それでは、築きのもりについてはよろしいですか。

それでは最後になります。小中一貫校建設事業について、どなたか意見があればお願いします。教育長、お願いします。

○教育長（久保 ひろみ君） 小中コミュニティ一体型校の建設が今、進んでいるところです。中も、教育内容も今、併せて進めているところです。

特に、小学校4つが1つになる。再編統合をするというところで、やはり学校がなくなる地域がどうだ、やはり寂しくなるというところの声がやっぱり聞こえてくる中で、地域学校協働活動を進めていくという取組を今、しているところです。

やっぱり学校がないからじゃなくて、地域がどれだけ学校という場所に関わりながら自分の地域も元気にしていくという取組を今、しているところなので、新しい挑戦をするわけです。特に、3階、公民館機能のところに地域の人に来て、いつも学校の様子が見える、ちょっと遠巻きに見える、そして一緒に活動するというものをつくっていくわけですけど、その学校の周辺だけにとどまらず、かつて小学校があった場所の文化も新しい学校の中に入れ込んでいくということを今、やっていこうとしておりますので、教育委員さんたちもいろんな角度から御意見を出していただいて、地域づくりの拠点として学校がどうなれるのかなと、私はちょっとひとつ、それはうちが進めているコミュニティスクール、学校を核とした地域づくりをどうできるかというところも考えておりますので、忌憚のない意見をいただきながら、教育委員会としても、積極的にまちづくりにもつながるような教育をしていきたいと思っておりますので、御意見いただければありがたいなと思っています。

○町長（古市 照雄君） ありがとうございます。一貫校、何かございましたか。よろしいですか。

私も、先ほどですね、また意見になるかと思うんですけども、やはり今回、小中一貫校で、こ

れについているのが地域コミュニティ一体校、一体型なので、今までも、先ほど今、教育長が言いましたように、今回初めての取組というか、建物の中に地域コミュニティが入る、これはもう、本当に挑戦だと思います。

もう手探りの状況になるかも分かりませんし、今、想定していることが全て、学校に子どもたちが来るのももう、小中一体型なんで、これも想定の中だと思います。

これも本当にチャレンジして、想定より違うことが起きるかも分かりませんし、あと本当に、地域コミュニティの一体校についてもチャレンジ、挑戦だと思っています。

そのところを含めて、やはり今からどういう形でやるか、できて、地域の人たちが子どもを見る距離ですね。それが、本当に子どもたちに向いてもらって、一緒に自分たちも、社会教育の分野になりますけども、社会教育も一緒にそこで融合して、地域の人たちも共に成長できるっていったところがあればいいのかなと思います。

具体策というのは、いろいろまた、お考えだと思いますし、その展開、施策のほうで反映していくとは思いますが、初めての本当に挑戦になってくるといいますので、どういった形になっても、地域の人たちがやっぱりできてよかったなっていうのが一番だと思いますし、子どもたちもできてよかったね、本当に愛される学校になればいいなと思っております。

以上です。

そうしたら、以上で本日の報告事項の5点については終わりました。

ちょっと時間が大分下がっていますが、押していますけども、その他に移ります。

5のその他で、何か意見交換等があればお願いできればしたいんですが、何かありましたらお願いします。お願いします。

○委員（行實 鉄平君） よろしいでしょうか。先ほどの1、2、3、4、5にまたがるような質問といいますか、話を一つというふうに思っています、1番目の教育職員に関する業務量云々っていうのがありつつ、STEAMとか国際交流、新しい教育のプログラムがあつてという、そこら辺のバランスというか、働き方改革というふうなところの部分の取組と、新たなそういった教育プログラムといったところの部分が、この学校の中で先生方の負担感というか、そういった意識なんかみたいなものをどういうふうにバランスを取っていくのかっていうのは、すごい悩ましい問題かなというふうに思っているんですけども、その点で、何かこう、事務方で考えているものがあったら教えてもらいたいです。

○学校教育課参事（濱田 健太郎君） 参事の濱田です。やはり、STEAM教育も新しいものなので、そこをやっぱり上手に伝えていかないと負担感につながるところがあると思います。

教育委員会としては、それをきちんとこちらが解釈して、こちらを支援するという体制を整えて学校にきちんとお伝えしています。

また、STEAM教育も新しく入れ込んだというよりは、今までの総合を再編成、見直ししてやっている。実務的にはまた増えているわけではございません。

あとはやはり、そういったところを支える基盤としては、ICTを本町は推進していますので、そういったところでは業務の効率化にも今、つなげようとしているところですので、やはり最初の部分の負担感の増にはつながらないように、かつ、子どもや先生も充実した活動できるようにというところで支援を続けているところです。

また今後も、そういったところに関しても御意見いただければと思います。ありがとうございます。

○指導主事（宮内 智久君） 指導主事の宮内でございます。先ほど、負担感ということなんですけれども、もう3年ぐらい前から先生たちに先進校に行ってください。それから、ICTのいろいろな展示会とか、それから小中一貫校に関しましても新しい取組ですので、それをしている学校等に計画的に行ってくださいようにしておりまして、そういった意味においても、かなり前もって、こちらが考えながら進めているという状況です。

先ほど、ICTがありましたけれども、業務の中でも校務支援システムで取り入れておりまして、改善の中にはありましたけれども、家庭との連絡とかそういったもの、それから授業時数集計とか、そういったものを一元的に管理して、できるだけ先生方の業務を少なくするように今、取り組んでいます。

それも、県の総合のシステムに入っていますので、どこに行ってもそれが使えるということで、そういった面を含めたところでも、業務改善ができるような取組を行っています。

○町長（古市 照雄君） そのほか、御意見、その他ですけれどもよろしいでしょうか。

ないようですので、本日の報告事項そして意見交換、その他については終わりたいと思います。

想定した時間を大分超過しましたがけれども、いろいろ意見が出たと思っております。この総合教育会議、私のほうも冒頭、ちょっと挨拶の中でも触れましたけど、臨機応変というか、皆さんの負担にならない範囲で、いろいろ意見交換が今後もできればと思っております。この中で、私も町政のほうに参考になる内容等々もありますし、この中で、教育行政を含めて、やはり同じ方向を向いていければと思っております。そちらのほう、推進をしていきたいと思っております。

今日は、長時間にわたり、慎重審議、いろいろな意見交換、ありがとうございました。

以上で、総合教育会議を終了したいと思います。お疲れさまでした。

午後5時11分閉会